

# 入賞作品紹介



⑥

## 小学生の部親子賞 入選

読む 知る 学ぶ



### ぼくと新聞

いわき市 吉田 晴紀さん  
高坂小5年

ぼくは最近、新聞を読むことが増えてきています。その中でも最も読む記事は「子供版」だ。子供版の記事は自分と関係あることがたくさん出てくるので注意深く読んでいます。

ぼくはサッカーチームに所属しているので、スポーツ記事でもサッカーがのっている記事をよく読む。サッカー記事は、ぼくの質問に答えるかの

と新聞を見てよく話す。ニュースはテレビでも見るが、サッカーに行っていたり、風呂に入っていたりして見られない時もある。新聞は自分の見られる時に読むことができるので、とても助かる。こまかく正確に知らせることができるので、いろいろな役に立つし、物知りになった気分にもなる。それから、新聞は文字の大きさが太さがちがうので、とても見やすく読みやすい。カラーの写真があるので、頭の中に情景が広がるので、読めば読むほど楽しくなってくる。

こんな便利な新聞が、天気の良い台風の日でも

### 私と新聞

祖母 吉田 トシ子さん

毎日は届かなくて、うれし間を読み続けようと思ひ。これからも毎日、新聞。

雨の日はナイロン袋に入れて届けてくれる新聞配達の方に感謝しつつ、今日も楽しみに目を通す。一度目は、さあーっと目を通し、二度目は洗濯物を干し終え掃除も終わった後に、コーヒーを飲みながらゆっくりと、ていねいに見るのが私にとって至福の時間だ。県内のさまざまな出来

事、地方版の中にある孫達の学校の行事、とりわけ絵や作文の入選者欄に孫の名前を見つけた時のうれしさ。「あった」。名前の上に蛍光ペンで線を引く。すぐに切り抜いて仏壇の夫にも知らせる。

県民紙の良さは、色々な事件、催し事が写真と文により詳細に知らされることである。小学校教員と警察官の息子達に関する記事も注意深く読み取り、安堵したり喜んで

いる。

小学五年生の孫は学校から帰宅すると我が家に来て宿題をする。私は早速「今日、〇〇君の名前が載っていたね」「合唱部の写真と記事が大きく載っているよ」「サッカー100優勝したね」と、新聞を広げ指差す。朝の登校前は慌ただしく、新聞に目を通せない日もある孫は「どれ、どれ」「あ、本当だ」と会話が弾む。

また、昨年の後半より私は「みんなのひろば」に投稿をはじめた。私の文が掲載された時には「ばあちゃん、載ったよ」と得意になる。「すごいね、ばあちゃん」。新聞を通して孫達との楽しいひと時。同じ新聞を愛読している会津若松市の嫁さんからも「お母さん、見ましたよ」と長電話。投稿し掲載されるようになってからは、同級生、知人から「見たよ」「感心したよ」とのはがきや電話でのやり取りも増えてきた。新聞から人とのつながりの輪が広がっているのを感じる。

夕食後にもう一度、関心のあった記事に目を通し、私と新聞の一日が終わる。